

感染予防に配慮した中学校の体育学習

「球技(ゴール型)」の配慮事項

2020.11.27 札幌市教育委員会

<https://youtu.be/mx9XIGL40U>



【授業前】

- 手洗いの指導をしっかりと行う。
- 体育館を使用する場合は、ドアや窓を開けるなど、換気は可能な限り常時、困難な場合はこまめに行う。 (8分41秒)

【授業中】

《配慮のポイント》

- ☆生徒同士がボールを奪い合うなど、接触する活動は実施しないこと。
- ☆特定の少人数や、特定のチーム同士による活動とするとともに、近接する場面が発生する活動については、回数や時間を絞るなどして実施すること。
- ☆ゲームなどを実施する場合は、近接する場面の頻度が多くなならないよう、移動できるエリアを制限するなどの工夫をすること。
- ☆活動中は不必要に大声を出さないように指導すること。

<学び方の指導例>

- 生徒同士がボールを奪い合うなど、直接触れ合うことを避けるルール設定とする。
- ルール、コート(場)の広さ、人数、使用するボール(の種類)は、実態に合わせて工夫する。

<バスケットボールを基にしたゲーム例>

■グリッド(四角形)を使ってのパス回しゲーム

- ・4対1(攻撃側の4人がパスを回し、1人は守備者。)
- ・グリッド(四角形)のそれぞれの辺に攻撃側4人が立ち、ボールを落とさないようにパス回しをする。
- ・守備者はパスカットをするか、攻撃側がパスをキャッチするよりも、その人の前にあるマーカーを先に踏めば守備者の得点になる。
- ・攻撃側がパス回しを10回連続で成功したら、攻守交代する。または、守備者が得点したら交代する。



■3対2のパス回しゲーム

- ・3対2(攻撃側の3人がパスを回し、2人は守備者。)
- ・攻撃側3人でパスを回し、守備者はパスカットをする。
- ・マーカ―を踏みながらパスキャッチできれば得点になる。
- ・時間を区切って攻守の交代を行い、何点取れたかを競う。
- ・マーカ―にいる人から、違うマーカ―にいる人への直接のパスは得点にはならない。
- ・ドリブルは禁止。



■ハーフコート4対0ゲーム

- ・ハーフコート4対0
- ・両サイドのゴールを結ぶ境界線を引き、左右のコートで人が入れ替わらないようにする。
- ・守備者を付けずに、空間に走り込む動きのイメージをつかむ。
- ・ドリブルは禁止。



■ハーフコート4対4ゲーム

- ・ハーフコート4対4
- ・近接する場面の頻度が多くなるように、コート縦に2分割して、奥側コートに黄チーム2人、紫チーム2人、もう一方の手前側に黄チーム2人、紫チーム2人とし、移動できるエリアを制限する。



■ハーフコート4対3ゲーム

- ・ハーフコート4対3(攻撃4守備3)
- ・近接する場面の頻度が多くなるように、コート縦に2分割して、奥側に攻撃2人、守備1人、もう一方の手前側に攻撃2人、守備1人とし、移動できるエリアを制限する。
- ・両方のコートを自由に行き来できる守備者を1人設ける。



■オールコート4対4

- ・オールコート4対4
- ・近接する場面の頻度が多くならないように、コート縦に2分割して、奥側コートに黄チーム2人、紫チーム2人、もう一方の手前側に黄チーム2人、紫チーム2人とし、移動できるエリアを制限する。
- ・ハーフラインまではドリブルでボールを運ぶことができる。
- ・ハーフラインを越えてからはパスで繋ぐ。
- ・攻守ともに奥・手前コートの移動はできない。
- ・守備側がパスカットしたり、相手がボールをコートの外に出したりしたら、攻守交代する。



<サッカー・フットサルを基にしたゲーム例>

■1対1ドリブルゲーム

- ・1対1(慣れてきたら2対1)
- ・6つのゲートに向かって、ドリブルでボールを運ぶ。
- ・ゲートの前には青いマーカーを置き、守備者がそのマーカーを踏んでいる時は、そのゲートは通過できない。
- ・手前のゲートよりも奥のゲートを通させたほうが高得点となる。
- ・慣れてきたら攻撃側の人数を一人増やす。攻撃側はパスもできる。



■4対2パスゲーム

- ・バドミントンコート4対2(簡易版は4対1)
- ・攻撃側は守備者エリアを挟んで向かい合う攻撃エリアの味方にパスを送る。同じエリアの味方にパスをしても得点にはならない。
- ・パスが成功したら得点になる。



■バレーボールコートを使用したパスゲーム

- ・バレーボールコート3対3(簡易版は3対2)
- ・攻撃側3人のうち、1人はゴールマン。
- ・ゴールゾーンにいるゴールマンへのパスが成功したら得点になる。
- ・パスカットしたり、パスミスでボールがラインから外に出したりしたら、相手ボールになる。

